



杉 浦 敏 議員

小・中学校、保育所の耐震対策の進捗は

問

弥富地区の7小・中学校の耐震改修の進捗率は50%にとどまっている。また保育所は南部、桜等、ガラス飛散防止フィルムの張り付けが済んでいない所がたくさんある。

計画を明確にし、1日も早く耐震対策を完了させることが必要ではないか。

小・中学校は22年度までに耐震工事を実施

答 教育部次長

19年度に桜・弥生小の北校舎の耐震補強設計を行い、20年度に補強工事を行う予定である。その他の学校は20年度までに設計を、22年度までに順次耐震補強工事を実施していきたい。

答 児童課長

いずれの保育所も14年に行った調査で耐震性を有するとの結果が出ている。ガラス飛散防止は18年度に避難経路の出入口付近を施工した。19年度も順次施工する予定である。



夜間運用拡大で航空機騒音減少を

問

航空機騒音について、昼間の運用時間帯(23時まで)をもっと早く切り上げ、夜間運用にさせるよう18年3月議会で質問したが、その後の進展は。

夜間運用は市を迂回するが進展していない

答 副市長

基本的には決定的なものが出ていない。23時からの夜間は基本的に海上旋回で市を飛行しないが、引き続き、国・県・空港会社呼び掛けて進めていきたい。

21時30分以降は、市を迂回飛行できるのでは

問

18年3月の副市長の答弁で「21時30分頃まで飛来する航空機の数が多いので、海上旋回しての着陸は危険」と、空港会社の言い分

を聞いた。

調べたところ、旅客便は福岡発21時45分着便を最後に22時以降はなく、貨物便も22時台は週3便である。

実際は、21時30分以降は十分対応可能なのに、既成事実になれば、将来23時までひっきりなしに飛来する事態も想定される。

新聞等を見ても、2本目の滑走路・完全24時間化の検討等、航空需要の増加は確実だと見られている。どこかで一線を引き、もっと真剣に考えてはどうか。

海上旋回する形を強く打ち出して考えたい

答 副市長

今後も、各関係機関に働きかける。夜間運用時間は全国的なもので変えられないが、少しでも時間を早め、海上旋回するような形を強く打ち出して考えていきたいと思う。